

件名	第2回平成の御車山利活用検討委員会 会議録		場 所
			高岡市役所8階 801会議室
年月日	平成30年10月26日(金) 10時30分～12時00分		
参加者	委員	6名	
	産業振興部 観光交流課 生涯学習・文化財課	川尻部長 長井課長、宮崎係長、片岡主事 宇波主幹(課長代理)(オブザーバー)	
内 容	<p> 《(1)安全性の検証結果報告》・・・資料1、資料1補足資料 安全性の検証の概要について、事務局より説明。検証結果については修理協会より説明。 委員 長:5月1日の高岡御車山祭でも、曳き回し後は山車にそれなりのダメージがあるのか。 A 委員:平成の御車山ほど複雑な作りではないが、やはりダメージはあるもの。また、からくり人形の動きが一つの見せどころであり、例えば山車は動かさずに展示してある状態であっても、からくり人形が動いているだけで人は惹きつけられる。からくりの動きは、今回の検証ではどうだったのか。 B 委員:からくり人形の全ての動作確認を実施した。検証の中で、扇子を開閉する操作糸が滑車から外れたことがあったが、腕を上げ、扇子を広げ、腕を前に出す、の順で行えば滑車から外れることはない。それ以外の動作を行う場合、滑車から操作糸が外れにくくなる細工が必要である。また、今後の利活用においては、からくり操作専門の人を育てる必要がある。 委員 長:からくりについては、滑車を変えたり加工をしたりというハード面の対処だけではなく、動かす手順や操作する人材の育成等のソフト面についても検討が必要となる。 検証結果については、修理協会からの総評にもあるように、動かすことにより大きな損傷は見受けられず、動かすこと自体については問題ない。軽微な損傷が生じた箇所については、修理協会の技術を持って十分に補修が可能である。ただし、からくり人形の操作については課題が残るものであった。 </p> <p> 《(2)今後の利活用(案)の骨子について》・・・資料2 事務局より説明。 委員 長:「保守産業」と「観光」が大きな利活用のテーマとなる。高岡御車山会館での企画展示にも関連するため、お囃子とからくり動作の決定は早急に取り組んで参りたい。また、動かすとなると、費用面と保守点検の面が課題となる。展示→補修→動かすことを考えた際、必要な財源をどのように捻出するか、今後検討していきたい。 C 委員:観光とは「特別感」を演出することであり、観光客は「特別感」を味わうために費用を払う。例えば法被を着て写真撮影、地山箱の中に入ってお囃子・からくりの操作体験、乗車体験など、特別な体験をすることで御車山会館の入館料プラスアルファのお金をいただくことは可能だと思う。 委員 長:「参加させる」ことが大切。5月1日の御車山祭に「平成の御車山」が参加するのは難しいかもしれないが、前田利長公にちなんだイベントで、人が多く集まるときに別の機会を作れないか。 </p>		

C 委員：毎年9月13日の前田利長公の高岡入城の日になみ、前田利長公顕彰祭がある。

委員長：高岡入場の日にからめるのはストーリーとしてはあり。鳳凰もデザインのコンセプトとなっている。「平成の御車山」のお披露目式の際に披露していただいた関野神社の舞だとか、何かプロデュースできればよい。

D 委員：体験プログラムは、比較的安価でできるものは市内でもよく実施されているが、最近ではもう一工夫して、金額は倍から3倍程度になるがプロ仕様の仕上がりのものが非常に好評である。C委員の発言にあったように「特別感」が大切。例えば写真撮影、乗車体験をそれぞれ単発ではなく、一連のプログラムとして作れないか。最後に体験した記念になるものをプレゼントするのもよい。

委員長：年に何回程度実施できるか。

D 委員：「平成の御車山」を出して曳くだけでも相当な費用がかかることが今回の安全性の検証で示されたので、例えば全体の費用の半分を体験料でまかなえるようにするなど、募集人数や実施回数の調整が必要。

委員長：「平成の御車山」は高岡の伝統工芸技術の結集であるのだから、例えば金具飾りの鍛造や鋳造を体験してもらうことは可能なのか。

D 委員：可能。矢骨の金具などであれば、真鍮に彫るので難易度は高いが可能である。漆はかぶれることもあるため難しい。

委員長：9月13日の前田利長公顕彰祭を一つのポイントにして、何か仕掛けを作りたい。

C 委員：5月1日の御車山祭はユネスコにも登録されているため、PR シツアーの誘致もできるが、新しいイベントで団体ツアーを呼ぶことはなかなか難しい。

また、今回の安全性の検証では高岡御車山会館から曳き出すだけでも修理協会や山町の方にお世話になったが、今後イベント実施の度に協力を頼むわけにはいかない。例えば花傘作りに多くのボランティアが参加したように、サポータークラブのような人集めから始めるべき。車輪のかたかごの花の金具が外で見ると非常に綺麗だったので、会員になっていただいた方には、会費を徴収する代わりにそのミニ版のレプリカをプレゼントするだとか、年末に皆で集まって「平成の御車山」の拭き上げをするなどの活動を実施する。

委員長：組織作りにおいては、中心となる人物が必要。観光と高岡の修理産業をからめた組織作りをし、知名度アップを図りたい。

E 委員：金屋の御印祭とからめるのはどうか。金屋町で「平成の御車山」を披露すれば、高岡はものづくりのまちであるし、このまちでこれだけのものを作れるというPRにもなる。新しい発想で、やるからには楽しくなければ人は来ない。

委員長：高岡地域文化財等修理協会の旗印としての「平成の御車山」、産業を活性化させる起爆剤としての「平成の御車山」の活用も考えていきたい。修理産業ともものづくりの伝統は直結しているもの。そこに「平成の御車山」を活かしていこうという組織作りを早急にする必要がある。中心となる人物が必要だが、経済界にそのような人材はいるか。

E 委員：勿論相談に乗ることはできる。

委員長：商工会議所とタイアップしたい。その他の課題、例えば曳手の育成については、山町はどうしているのか。

A 委員：長い目で見て、何年かごとに数名入れ替わるようにしている。

	<p>委員長：「平成の御車山」を今後の曳手、お囃子奏者、からくり操者の人材育成の研修材料として使うのもよいと思う。</p> <p>また、「平成の御車山」が自立するまでには支援が必要。①経済界、②市民、③行政が三位一体となって支援をしていく必要がある。</p> <p>E 委員：まず費用的にどの程度必要か想定すべき。例えば祭りの広告費のような協賛、行政からの補助、場合によっては地元の補助も財源となるのではないか。伝統産業に関わる方々も趣旨が合えば協賛してくれるはず。修復業の大きなPRにもなる。</p> <p>委員長：組織作りという大きな課題の下に、お囃子、からくりといった課題がある。組織作りにおいては、経済界、市民、行政の三位一体で活動できる組織を目指したい。</p> <p>事務局：第3回の委員会を11月末に予定している。それまでに利活用案の骨子を報告書の素案として事務局で作成し、第3回委員会までに委員の皆様にご意見をいただきたい。第4回については12月末を予定している。</p>
--	--